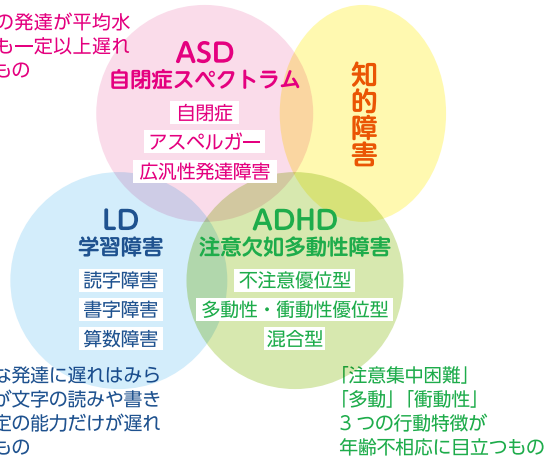


主な発達障害の分類と特性

社会性の発達に平均水準よりも一定以上遅れているもの



その他

■トゥレット症候群

複数の運動や音声チックが続く重症なチック障害。

■吃音

一般的に「どもる」話し方の障害で、滑らかに話すことが年齢等に比して不相応に困難な状態。

■発達性協調運動障害

手と目、手と足などの個別の動きを一緒に行う協調運動が、不正確、困難な障害。

発達障害であることは目に見えないため、周囲から理解されにくい障害です。車いすや松葉杖を使う人のように困っていることが明確でなく、周囲も本人も、実は根底に発達障害があると気付いていないことがあります。

発達障害の診断を受けることで、そのような誤解や理解不足の軽減につながります。

ヘルプマーク



発達障害など配慮や援助を必要とすることが外見からは分かりにくい場合に、周囲に配慮を必要としていることを知らせることで、援助が得やすくなることを目指して作成されました。お住まいの市町村や、県障害福祉課などで配布されています。

二次障害への対応

発達障害の特性について周囲の理解がないと、失敗や叱責によって傷つく体験が続いてしまいます。そうしたストレスの高まりや自己肯定感（自分自身の価値や存在意義を肯定できる感情）の低下によって、精神的な崩れや問題行動等につながる可能性があります。

誰でもうまくいかないことが続くと自暴自棄になることはありますが、発達障害の人の場合、その理解のされにくさによって傷つく可能性が一段と高くなります。



支援のポイント

- ★特性の理解（得意なこと、苦手なことを知る）
- ★自分自身と周囲の理解（特性や支援の必要性を自分で理解し、周囲にも知ってもらう）
- ★対処方法や工夫の検討（どんな支援や工夫があれば苦手が軽減するか考え試してみる）
- ★本人に適した環境設定（安心して過ごせる環境を整えていく）

医療機関を受診するときは

現在お困りの様子だけでなく、小さい頃からの様子やエピソードなどが大切な情報になります。母子手帳や当時の成績表を持参したり、出来事をメモにまとめるなどの準備があるとスムーズな診察につながります。

県内で発達障害の診察が可能な医療機関の一覧は「秋田県発達障害支援ハンドブック」に掲載されています。このハンドブックは、ふきのとう秋田のホームページ【<https://airc.or.jp/fukinotou/f-top.html>】にも掲載しています。

● 作成・お問合せ先 ●

秋田県発達障害者支援センター
ふきのとう秋田

〒010-1409 秋田市南ケ丘 1-1-2 TEL.018-826-8030

正しく知りたい発達障害④

成人期 (生活)



発達障害とは

- 発達障害は、生まれつきの脳の働きや発達のアンバランスさによって、普段の生活に支障が出てしまうことを言います。
- 本人の努力不足や保護者の養育によって起こるものではありません。
- 早い時期から周囲の理解が得られ、その人に合った適切な支援や環境の調整が行われることが大切です。
- 発達障害の方の困りごとや苦手さは、人それぞれ異なります。その人が困っていることを知る事が第一歩です。
- 感じ方や考え方の違い、できないことを「努力不足」と決めつけず、その背景にあるものを探ってみましょう。
- 発達障害に関する相談先や、診断が可能な医療機関を活用しましょう。

発達障害における支援とは

- 発達障害は生まれつきのものですので、治療したり完治させたりすることはできません。
- 発達障害による特性（その人の苦手なこと）を正しく理解し、必要な支援や対処方法を見つけていくことで、特性による困りごとを軽減させていくことが目標です。
- そういった対処方法を本人や家族など、本人に関わる周囲の人と一緒に考えていくことが、発達障害支援の大きなポイントです。

秋田県発達障害者支援センター
ふきのとう秋田

成人期(生活)

さまざまな特性の現れ方

コミュニケーション

相手の気持ちに気付けない
空気や雰囲気を読むのが苦手



生活

家事や育児が苦手
金銭管理が苦手なトラブルに巻き込まれやすい
近所や親戚との付き合いが苦手
マイルールを崩されたくない
白黒はっきりさせたい極端な考え方
好きなことには時間を忘れて没頭
異性との関わり方がわからない
ギャンブルやお酒などに依存しやすい



夫婦間

相談なく高価なものを購入する
子どものことを相談できない
自分の趣味に没頭
家族より自分優先



大人の発達障害！？

発達障害は生まれつきの脳機能の働きによるものなので、大人になってから発達障害を発症するということはありません。

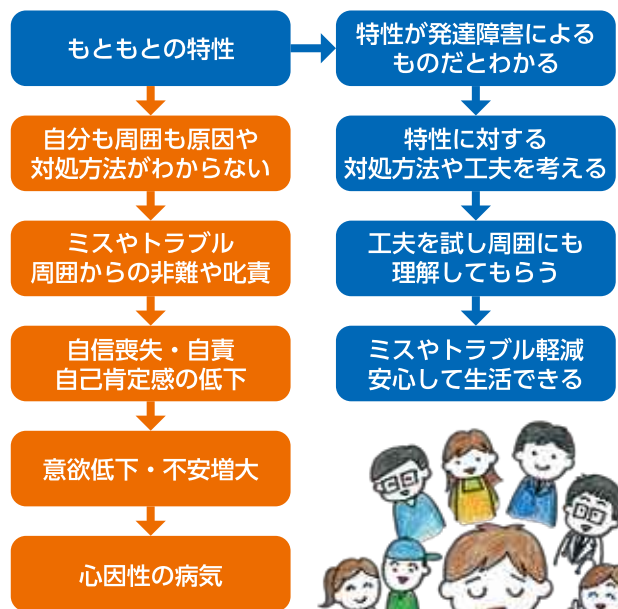
しかし、子どもの頃や学生時代には全く気付かれず、大人になって初めて特性が表面化したり、周囲の環境の変化に馴染めず問題行動となって現れたりすることがあります。

発達障害の特性があっても、子どもの頃や学生時代は、家族や学校の枠組みの中で、さまざまなサポートを受けることができました。しかし大人になって社会に出ると、そうしたサポートはほとんどなくなってしまいます。

より複雑な人間関係や臨機応変さを求められる大人の社会では、精神的な負担を抱える可能性が高くなり、二次障害につながることも多くあります。

二次障害

発達障害の特性によるトラブルなどによってストレスが重なることで、二次障害を引き起こすことがあります。



紹介している特性は一例です。また、発達障害でない場合も同様の言動がみられることがあります。

昔はもっと大変だったんだ！
しっかりしろよ！
掃除と洗濯と買い物と…何からやればいいのか？



子どもが
何で泣いているか
わからない

夫婦間でのトラブル

夫婦間や家庭内の問題は外からは見えにくく、家族の中でも一人だけ悩んでしまうことがあります。特に発達障害の男性を夫にもつ妻は、周囲に相談しても「男の人なんてそんなもの」等言われて理解されにくく、我慢が足りないと自分を責めてしまいがちです。発達障害の特性によって起こるトラブルは、誰のせいでもありません。特性を理解するために、専門機関への相談が可能です。

家庭内での工夫

家事や子育ては、ルール化されず臨機応変さを求められることが多いため、発達障害の特性によっては非常に対応が困難です。無理なくハードルの低いことから、少しずつ取り組んでいきましょう。

工夫の例

- ★スケジュールややるべきことを洗い出す。
メモやスマホ等を活用し目に見えるかたちにする。
- ★具体的な表現を使う。
「ちょっと待って」→「5分待って」
「ちゃんと片付けて」→
「電車のおもちゃを赤い箱にしまって」
- ★大事な話をするときは、テレビを消すなど集中できる環境を用意する。
- ★アラームなどを使って、過度な集中を予防する。
- ★複数のことを同時進行せず、一つずつ取り組む。など